

当院では、タイミング指導、人工授精による一般不妊治療を行っています。

不妊治療から始まり、妊婦健診、ご出産、産後ケアに至るまで、一貫したサポートをご提供しています。



○妊娠を考えているけれど、体外受精まではまだ考えていない方、

○育児や仕事をしながらなるべく無理なく通いたい方
(お子様連れの通院も可能です)

一度御相談下さい。

A.初診時スクリーニング検査・これまでの経過や治療歴の確認



① 子宮頸がんの検査

② クラミジア抗原検査

卵管や腹腔内が癒着し不妊の原因となり得る感染症です。

③ 超音波検査

子宮や卵巣の疾患(子宮筋腫・卵巣腫瘍など)の有無を確認します。

④ これまでの経過の確認

妊活を始めてからの経過や治療歴についてお伺いします。

B. 不妊症一般検査

月経周期に応じて行います。月経周期の何日目(月経開始日を1日目とする)であるかによってできる検査が決まります。

① 基礎体温 婦人体温計で測定し、受診時は記載した表をお持ちください。 排卵時期や黄体機能の確認など、治療上重要な情報になります。

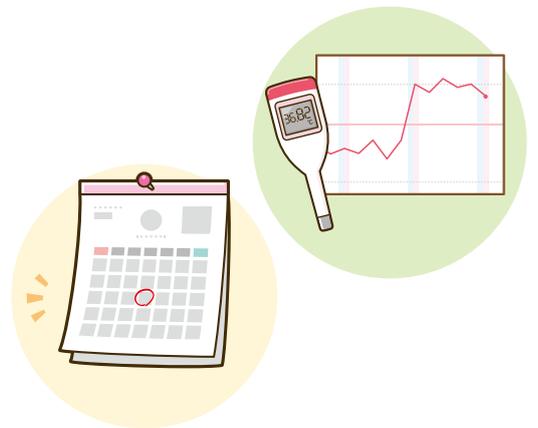
② 低温期ホルモン検査

月経周期の5日目以内に採血します。

下垂体ホルモン・プロラクチン(乳汁分泌ホルモン)

甲状腺機能・糖尿病

AMH(卵巣に残っている卵胞の数)



③ 子宮卵管造影検査(HSG)

卵管の通過性を確認する検査です。子宮腔の形や卵管の周りの癒着も確認します。

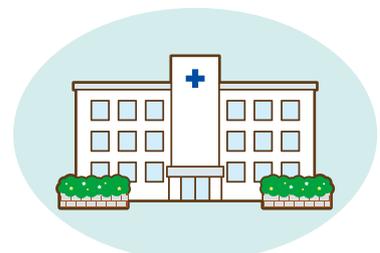
子宮卵管造影の痛みについて心配されている方が時々いらっしゃいますが、実際は、卵管が通過している方であればほとんど痛みを感じることはありません。

痛み特に弱い方は鎮痛剤を使用して検査を受けていただくことができますので、事前にご相談ください。

④ 高温期ホルモン検査

排卵後7日目(高温期7日目)に採血します。

プロゲステロン(黄体ホルモン)



⑤ 性交後検査(フーナーテスト)

精子と子宮頸管粘液の相性を調べる検査です。
排卵直前に性交し、12時間以内に受診していただき検査します。

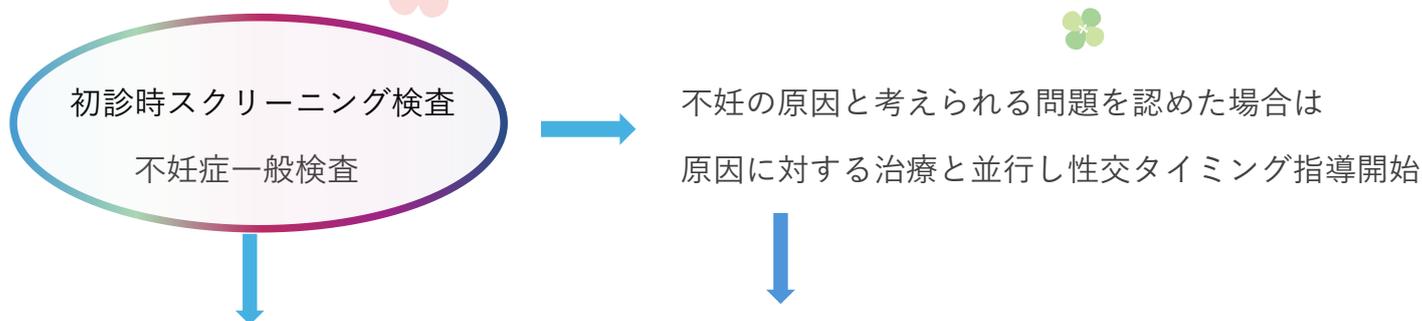
⑥ 精液検査

採取していただいた精液の量・精子濃度・精子運動率・精子奇形率などを調べる検査です。

排卵後、高温期に容器をお渡しし、ご主人の精液をお持ちいただき検査します。
(ご主人は来院されなくても検査可能です。ご主人の保険証をお持ちください)

検査の前には3~4日間の禁欲期間が必要です。禁欲期間があまり長いとかわって運動率が低下する事もあります。

当院での治療(一般不妊治療)の流れ



原因不明(機能性不妊)の場合、性交タイミング指導を開始します。

基本的には、性交タイミング指導6回後、ステップアップし人工授精6回(必要に応じ排卵誘発剤使用をご提案)する方針ですが、ご希望によってカスタマイズも可能です。

- タイミング指導をもう少し長く行いたい
- 早めにステップアップしたい
- 人工授精からスタートしたい
- 排卵誘発剤の使用を早めに検討したい
- 人工授精は希望しない
- その他ご希望があれば医師にお伝えください。



★当院では体外受精は行っていません。タイミング指導6回、人工授精6回施行後も妊娠に至らない場合、体外受精へのステップアップを視野に入れ転院の提案をさせていただく可能性があります。

★これまでの治療歴・不妊一般検査結果・ご年齢・排卵の状況により、医師が必要と判断した場合は、早めのステップアップ、早めの転院をご提案する可能性もあります。

★実際に検査や治療を行う時に、内容について医師から説明があります。

わかりにくいところやご質問があればその時にお尋ねください。